

TOPICS

メキシコから石油輸入 日量五十万バレル

カナダは、このほどメキシコとエネルギキ協定を結び、十年間にわたって最高日量十万バレルの石油を輸入することになった。実際の引渡しが始まるのは今年末から年初めになる予定で、一九八一年には最低五万バレル(日量)に達するという。

また、この協定(五月に調印)に基き、メキシコはその原子力発電計画の一環として、カナダのキヤンプトウ型原子炉の採用を検討することになった。メキシコ電力審議会が行なうこの検討作業には、カナダ原子力公社(AECIL)が協力する。その結果、メキシコがカナダから原子力技術または原子力機器を輸入することになれば、両国政府は、双方とも批准している非核拡散条約に基づいて、それぞれの非核拡散政策を適用することになる。

協定は、そのほか、①メキシコのウラン開発におけるカナダのウラン探査・採取・精練技術の適用を検討する②西部カナダの原料炭のメキシコ向け輸出を、五年間に三百万トンまたはそれ以上に増やすよう取りきめる③エネルギキ十節約および再生可能エネルギー資源

の開発について共同作業の可能性を探る——などを定めている。

カナダは、イラン革命まで日量五十二万バレルの石油を輸入していたが、輸入が減つてからは、減少分を国内石油の増産によつて補つている。メキシコから日量十万吨が輸入されれば、イラン革命前におけるカナダの石油輸入需要の一九八一年をメキシコが供給することになる。

来春、ケベックで州民投票 主権・連合か、合衆維持か

ケベック州のルネ・レベック首相は、このほどケベックの「主権・連合」に関する州民投票を来春に行なう、と発表した。同首相によると、投票用紙に記載される質問は、州政府の選択すなわちカナダと経済的連携を保ちつ、ケベック住民のすべての税金および立法権をとり戻すことに對して信任を求めめる内容になる。

ケベック州政府は、秋に州議会が再開する前に、主権・連合の意義を説明した白書を発表するという。レベック首相の発言に對して、クランク首相は次のような談話を発表している——「レベック氏は州民投票をおおつていた」混乱のペールをいらかとり除いてくれた。私としては、秋に州民投票

をやつて欲しかった。そうすれば、すでにケベックがあまりに長く耐えさせられてきた不安を、もつと早く解消できるはずだからである。ケベック住民は、来春、きわめて重要な問題に決定を下さなければならなくなつた。未だに不明確な選択と、一九八〇年代の状況に合った連那体制のいすれかをとらなければならなくなつたわけである。そのときになつて、ケベックの人々がカナダにとどまり、限りない可能性を彼らに与えるこの偉大ななる国で自分たちの将来を築くことを選ぶものと、私は確信している。」

カナダの原子炉 耐震設計に配慮

カナダが独自に開発した原子炉(キヤンプトウ炉)は、その安全性と高い稼働率で知られているが、はたして耐震性はあるのだろうか。カナダ原子力公社が発行している季刊誌「*Magis*」によると、耐震性のある原子炉の設計開発では力ナダは最先端を進んでいる国のひとつで、キヤンプトウ炉は建築基準法に明記されている地震よりも強い地震活動に耐え得るように設計されているという。以下、同誌からの抜粋。

カナダ国内におけるキヤンプトウ炉の建設には、オントリオ州西南、ケベック、ニュー・ブランズウィックなどの、平坦で安定した沿岸地帯が選ばれてきた。国外に輸出される原子炉も、アルゼン

チンのコルドバ、韓国の蔚山といつた、地すべりや地形の大きなひずみが無に近い平坦で堅固な地域に建設されている。しかしながら、電力に原子炉を必要とする工業諸国では、何百万もの人々が地震活動の激しい地域に住んでいる。日本のほとんど全部、米国やイタリヤの一部は大地震地帯だし、台湾では一日に三、四回も地震が起きている。

カナダが安定していない地域へ輸出されるキヤンプトウ炉は、極端な事態を考慮した特別な設計と開発が必要。そこで一九六六年、原子力公社は実際の地震活動をコンピュータ・シミュレーションによつて解析するいわゆるタインミツク・アナリシスを用いて、地震に耐える原子炉の設計にとりかかった。この新しい技法は、ケベックに建設されたジヤンテナイエ一号炉の設計に初めて生かされた。

カナダのマイム劇団
九月に日本各地で公演
言葉ではなく、体の動きによつて物語を演じるマイム。カナダを代表するマイム劇団「シアター・ヒヨント・グ्रेस」が、九月、国



際児童年と日加国交五〇周年を記念して来日する。一行は、九月二十五日の東京国立演芸場、二十六、七両日の東京都児童会館での公演を皮切りに、横浜(神奈川県立青少年センター)、北九州(戸畑市民会館)、福岡(少年文化会館他)、金沢、魚津と各地を巡回、十一月の北海道(静内文化センター、苫小牧市民会館)、東京・板橋(城北高校)、池袋(池袋子ども劇場)での公演まで、およそ一カ月半にわたつてマイムを上演することになっている。演目は「ゆかいなホト一家」と五、六編の小品。

主催は日本児童演劇協会(東京都渋谷区神宮前六一九三三電話四〇九一一七九二)。

合成インシュリンの開発 カナダの学者が研究

豚、羊、牛などの膵臓から作られるインシュリンは、糖尿病の治療薬として欠かせないが、カナダの遺伝学者はこのインシュリンよりもっとすぐれた合成インシュリ